

## 文化・芸術

### 「子供たち」

1936年ごろ、油彩・紙  
45・9センチ×30・4センチ

野田英夫 (1908～1999年)

野田英夫は日系米国人2世として生まれ、3歳のとき熊本に戻り、18歳で再び渡米し美術を学びます。ベン・シャーンとともに当時の世界的画家ディエゴ・リベラの助手として壁画制作にも携わり、米国美術界で注目されました。1934年、不況下のニューヨークから来日、その4年後に亡くなりましたが、野田の画面は松本竣介にも影響を与えました。

野田は同時代の日本人画家たちが欧州を目指す中、米国の地を踏みしめ都会に生きる人々や労働者の姿を描きました。日本においては米国生まれ、米国においては日本育ちという二重の生活は、人間社会における矛盾を突きつけられ、また孤独になることもあった一方、現実感覚を研ぎ澄ますこととなります。

初代館長・大川栄二は「人間を信頼し愛し続けた野田の人柄は、どの絵にも温かい血が流れた目で描いている」「哀愁の中にロマンがあり、愉(たの)しさが隠されている」と述べています。

企画展「コレクターの目」は今週末27日から開幕いたします。

(大谷)



### 《名画の扉》

大川美術館企画展「大川栄二生誕  
100年記念 コレクターの目」から